

世界展開力 6 か月目 報告書
国際農業開発学科 3年 森巧大

私は12月の大学の長期休みを利用してペルーに行ってきました。ペルーでカムカムの栽培や、パイチェの養殖を行っているOBの鈴木さんのところで実習をしてきました。今回はそのことについて書いていこうと思います。

作業は主に養殖しているパイチェの管理でした。基本的に昼間は暑くて倒れてしまうので、朝早くと夕方に作業を行いました。日差しが強く、昼間に作業をしてしまうと日に焼けて大変なことになってしまいます。実際、最初の2日間は昼間に張り切って作業をし、日に焼けてしまい大変な思いをしました。何をしても日に焼けた腕が傷み、アマゾンの洗礼を受けました。

毎日の作業（主にパイチェの飼育）

起床6時。パイチェ（ピラルク）の餌やり、朝6時半くらいに餌が届くので7時くらいから餌やりを始めました。パイチェが飼育されている池にバケツの中の魚を投げ込みます。餌の量は池によるが、30kg~90kg。2回に分かれて餌の魚が届くので、7時と10時に餌やりを行いました。

朝昼晩、池の温度の測定。なるべく平均値が知りたいので1つの池につき3か所、計測を行いました。電子温度計ではないので、水に浸けてから30秒後の値を計測しました。最後にExcelでまとめて可視化しました。パイチェの池の大きさの測定、それをエクセルでマップにしました。またカムカムの畑の近くに植えてある植物の観察とマップ作りも行いました。Ayahuasca, Ajo sachas, Pinon Colorado, Pinon Blanco, Pan del árbol, sanango, Sangre de Grado, Zapote, Umari, Huasaiなどの植物が植えられていました。日本で聞いたことのない植物ばかりで現地の方々に教えてもらいながらマップを作りました。

それ以外はパイチェの行動をチェック、餌が池に残っていないか、パイチェを盗む人がいないか監視などを行いました。

12月15日にはパイチェを買いに来た人がいたので25匹捕獲して、大きさ、重さを測って売った。計測の最中に一匹他の池に逃げてしまい、結局24匹になってしまいました。パイチェは下半身がともしなやかに動くので20kgを超えてくると一人では抑えきれず2人がかりで抑えて運びました。25匹を捕獲・計測するのに4時間くらいかかりました。なかなか大変な作業で、途中から雨も降ってきて寒かったことを覚えています。

毎月17日がパイチェの重さの計測の日なので、池からランダムに20匹捕獲し、重さを計測

しました。また、売るときも重さと長さを計測してから売りました。

池の大きさ、深さの調査。池の周囲はメジャーで測りマップを作りました。池の深さは木の棒を持って池に入り、一番深いところの深さを測りました。この時パイチェが足に突撃してくるので怖かったです。

生簀で育てているパイチェが大きくなったので、それらを大きい池に移す作業も行いました。

パイチェ以外の作業

サツマイモの畑の除草、オクラの播種、タロイモ・空心菜の観察、植えてある植物のリスト、畑のマップ作りなどを行いました。

食事はお米を 8 キロ買って農場に持っていき、そこに住む人たちにご飯を作ってもらいました。

3. 感想（所感）

プカルパの農場で実習させて貰うのは今回で2回目でした。主にパイチェ（魚）の実習をしました。今までは作物に関わる実習しかしたことがなかったので今回、パイチェの実習が出来て多くのことを学びました。最も驚いたことは池の水深です。農場で実際に生きているパイチェを見てみないと分からないかもしれませんが、パイチェの大きさに対して池がそんなに深くないのです。しかも一つの池に数百匹のパイチェがいます。実際に自分が入って水深を確かめた時は 80 cm~100 cm 程度でした。これには理由がありパイチェは肺呼吸ができるので他の魚に比べて、養殖するときに池に対するパイチェの密度が大きくても問題がないからです。実際に池に入って感じたこととして、パイチェは他の魚と違ってあまり逃げません。私が池に入って作業しているときも足やお腹に衝突してきました。また餌をあげるときに投げ入れないで、手で持って水面で待っているとパイチェに餌付けすることも可能です。しかし捕獲するとなるとまた違ってきます。彼らの下半身は他の魚に比べて、とてもしなやかに動くので大きいパイチェに叩かれた場合、かなりの衝撃があります。実際に捕獲しているときに農場の方が顔を叩かれて、切れて血が出ていました。水温は大体 28°C~34°C でした。やはり熱帯の魚なので水は温かく感じました。

農場での生活は私にとって刺激的でした。生活用水は基本的に井戸水です。お風呂は井戸水を汲んでバケツに移して、それをコップなどで体や頭にかけて洗いました。水ですがプカルパは暑いので気持ちよかったです。日本では蛇口をひねれば簡単にお湯も、水も出ます。ここでは水を汲まないといけません。日本での生活とは違い、原始的でとても貴重な経験でした。また、農場の中はほとんど電波が通じないので携帯も使えません。私にとってはそれもとてもいい経験でした。日本にいるときは暇さえあればすぐ携帯を開いてしまう私にとっては自然を感じる事が出来るとても穏やかな時間でした。早起きをして仕事をし

昼間の暑い時間は日陰で休み、歩いてるアリやパイチェを観察して穏やかに過ごし、夜は明かりがないので真っ暗な小屋の中でいろいろ考え事をして気が付いた時には眠りに落ちるような理想的な自然の中での生活でした。夜中に起きて空を見ると満点の星空が広がっていました。

一生忘れることのない経験が出来ました。